

# 望月氏(前中田連合自治会会長)を偲んで

～何事も責任感を持って取り組むことが大事～

2018.02.06

中田地区



中田連合自治会 望月 榮 会長

中田連合自治会の会長を務めて、16年になります。  
あっという間に感じますが、日々緊張の連続でした。

これから地域づくりを担う方に贈りたい言葉は、「責任」と「決断」です。

これだけ聞くとプレッシャーに感じると思いますが、家族を守る責任、未来を担う子どもたちを見守る責任、火災などから地域住民を守る責任等、生きているうちは多くの責任を感じると思います。若いうちに苦勞した方は分かると思いますが、人生は苦勞がなければ楽しみを見出すことは難しいです。地域活動は、生涯のやりがいになります。

今回事例集に掲載されている中田町第5公園「公園あそび」の高橋会長（中下自治会）からは、毎月活動報告書をいただいています。とても素晴らしい活動をされており、心から感謝しています。

この活動のように地域を縦割りにするのではなく、縦と横の繋がりを強くすることで、見守り・防災、また地域づくりの理念が次の世代へと歴史と共に引き継がれていくのです。

# 望月氏(前中田連合自治会会長)を偲んで

小さなことでも引き受けたら  
やり遂げる

望月榮さん(86歳)

※市長賞記念品を手にして



苦労がなければ楽しみを見出すのは難しいという望月さん。苦労したけど生涯のやりがいとなった地域活動についてお話を伺いました。

## 働きながら猛勉強の日々

生まれは山梨ですが、1958(昭和33)年に群馬にある銅鑛製造の会社に嫁あって就職しました。会社の先輩が夜間の大学へ行くと勧められて、お金と時間は会社が持つことまで言ってくれ、試験を受け合格しました。今でも試験問題を覚えています。そのくらい向き合いました。勉強は人生で生きていくための「考える力」「忍耐力」を高められ、本当にためになります。仕事にも通ずるものがありますよ。真剣じゃない人と、適当な人ってすぐに差がつかます。未だに数学の本を読んでいます。仕事をしながら夜間大学へ通う日々がはじまりました。夜間大学の時間は17時半〜21時。皆仕事終わりで疲れています。教授は「寝たい奴は寝ていい。イビキをかくのであれば、後ろに座れ」と言い、勉強したい奴だけについていこうといった自主性を求められました。試験範囲も膨大で、どこが出るかと

年寄りになってしまいうんだから、まずは実績、自分で経験しないとイケない。地域で必要だと思つた。責任をもってやり遂げることに教わりました。井上さんからの意思を受け継ぎ、二十日会※を続けています。

とんちな小なことで引き受けなことをやり遂げ、継続すること、信頼できる仲間が重要です。不器用でもいいんです。とにかく汗を流す。続けていくことで、責任が重くなっていくことがあります。しかしそれは、人間生きていくうえで必要な生きがいではないでしょうか。私は連合会長を退いた今でも、小学校登校時間のあいさつ、交通安全活動は続けています。足は悪くなりませんが、心は元気なんです。子どもが成人を迎えたお母さん方が、あいさつ運動に参加してくれるようになりました。嬉しいですよ。

## 信頼関係は日々の積み重ね

はじめて地域に出る方にお伝えしたいのは、神はつけないことです。神をつけて地域に行くこと、なかなか受け入れてもらえません。神を捨てて、裸で飛び込んでください。地域では、過去の栄光や開業は何の意味も持ちません。みんな平等なんです。一生懸命やっている人はすぐに分かりますから、自然と仲間として受け入れられます。

信頼関係は、二田ではまだ中々ありません。日々の積み重ねです。まずは、近所のいき好い、敬老会の

か教えてくれません。その分野に精通するとは「ういっ」とか、というくらい猛勉強しました。その分野を真剣に学ぶには、向き合い続けて理解しないといけない。大変でしたが、無事に卒業することができ、卒業証書は家宝になっています。

## 兄から地域を大切にすることを教わる

会社の営業をしていたとき、兄の依頼で会社の専属顧問理士を紹介しました。それがきっかけとなり、兄の工務店の経営を任せられることとなり、ここから地域が身近になっていきます。「地域を大切にする」とことは兄から教わりました。地域の盛衰は地域の工務店、地域で営むということ、そして地域を大切にするといいことはイコールである。地域を大切にしないと仕事は来ないと教わりました。兄は連合会長や老人会の会長などを務め、積極的に地域に出ています。カラオケでは市の大会で優勝するくらいの腕前で、そのための和装洋装をこしらえるくらいです。地域の行事、結婚式では必ず登場していましたね。忙しく外に出てしまふので、ほとんど私が終盤していました(笑)。

## 中田で望月工務店開業、そして地域活動

中田へ来たのは、1958(昭和33)年3月7日。望月工務店を開業したのは1971(昭和46)年6月、2021(令和3)年で50周年になります。地



▲市長賞記念品を手にして

協力、お年寄りのサポートなど、当たり前のようにやる。それを自慢してはいけない。誰にも見られていないところで、地域に尽くすことが大事。自分の住む地域ですからね。若いうちに苦労した方は分かると思いますが、人生は苦労がなければ楽しみを見出すことは難しいです。地域活動は、生涯のやりがいになります。

※二十日会

高齢者の見守りと外出の機会を通じた社会参加の場づくりを目的に、1999(昭和74)年に中田地区の有志によって始まった。現在は、民生委員が中心で、福祉協議会の協力のもと、毎月二十日(16時以上)の入居者への高齢者を対象に食事を提供する地域活動を続ける。

## 引継ぎは受けたいがやり遂げたい

私は中田地区で民生委員や更生保護女性会などの要職を長く務められた井上静子さんの影響を受けていて、今でもさまざまな活動に携わっています。「お年寄りは、お出しした方が多い。年寄りのいう事は、ちゃんと真剣に聞かないとだめ。みんな

域活動もその頃から始めました。一番影響が大きかったのは、1973(昭和48)年に中田小学校のPTA役員を務めたこと。これがきっかけとなり、今に至ります。地域の飲み友達から誘われ、その勢いで「協力する」と口を叩いてしまつたんです(笑)。単会の副会長を11年、会長を8年、中田連合の交通部長は1988(昭和63)年から2002(平成14)年まで務めました。中田連合自治会会長になったのは、1999(平成11)年、16年間あつたという間に感じますが、日々緊張の連続でした。

私は、責任をもらって仕方なくやるのではなく、自主的にやるのが意味はないと思つています。任されたからには、責任をもって活動してききました。年頃のあいさつでは、町内会長、役員にお礼を伝えます。お礼を言うのは簡単かもしれませんが、私は心から伝えています。それは日々の大変さを知っているからです。自分が先頭に立って地域に飛び込んでいかないと、このお礼の言葉は全く響かないんです。連合会長がえらいのは仕事と責任であつて、人物ではないと考えています。